

令和4年11月2日

報道関係者各位

芦屋市議会議員
孝岡 知子

『ハラスメント被害の申告及び対応の要請』に係る記者会見のお知らせ

拝啓、立冬の候、貴社ますますご清栄の御事とお喜び申し上げます。平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

昨日報道関係各社様へ、プレスリリースのFAXを送らせていただいた芦屋市議会議員の孝岡知子と申します。私が、芦屋市議会議長、副議長、事務局長から受けていた行為に対し『ハラスメント被害の申告及び対応の要請』を、芦屋市総務部コンプライアンス推進室長と芦屋市議会ハラスメント相談員へ令和4年10月26日に提出した件について、及び11月6日までに回答をいただくことになっている件について、記者会見を実施する運びとなりました。

なお、記者会見につきましては、会見の場を慎重に整える必要があり、弁護士立会いのもと日時と場所を改めさせていただきました。誠に申し訳ありませんが、下記のとおり変更いたしますことにご理解賜りますよう宜しくお願い申し上げます。立冬間近の肌寒い季節につき、どうかご自愛くださいますよう、皆様のご健康をお祈り申し上げます。

敬具

記

日時：令和4年11月7日（月）16時～18時

場所：神戸芸術センター会議場 503号

立会人弁護士：x x x x

以上

【問い合わせ先】

芦屋市議会議員たかおか知子

令和4年11月7日

ご出席の報道関係者の皆様

はじめに、これだけは断言いたします。この度の事例に関し、私は何ひとついい加減な気持ちで行動していたことは一切ありません。公人として常に最善の注意を払い、節度あることを心がけて優先してきました。議員であれば当然のことだからです。しかし、そんな思いを理解せず知りもしないで、私に対し、周囲への配慮がなく自分勝手な行動をしたと決めつけた人たちによって、深く傷つき、私がこれまで芦屋市議会から受けた屈辱を広く知っていただきたいと公表することを決意致しました。

私は、無所属議員として2人の子どもが未就学児の時に2019年の地方選挙で初当選した、一期目の新人議員です。私のように政党や団体の支持基盤もない議員は少なく議会では少数派の議員になります。子育てしながらのお母さんが、市議として議会に飛び込んだのですが、今のような議会運営を行っていたら、私のような市民目線の議員が増えることは難しいと感じさせられています。

議員と子育ての両立をしながらの生活である私にとって、同居の家族が感染し、濃厚接触者になった時の生活はとても大変でした。患者は自宅療養でトイレ以外は部屋から一歩もでてはいけないという中で、食事等の支度や頻りに消毒を行い、患者は隔離部屋でトイレは別々、お風呂も入りませんでした。患者の高熱が下がらない時は容態が心配でたまらず、1人で寂しい思いをさせていることに対しても心苦しい気持ちで不安でした。一方で、議員という職務を果たすべく本会議中だった私は、公務を休まないよう自身の体調管理にも最善の注意をはらいながら、家庭内でも家族との接触は控え、他の議員にも迷惑をかけないように常に気にしながら行動していました。

しかし、そんな私の思いとはよそに、私が濃厚接触者であることが軽率に庁内で知れ渡り、それを知った人たちからは、気遣いのやさしい言葉をかけてもらったことはありませんでした。それどころか追い打ちをかけるように、正副議長から「偽って公務を休んだ」とか「欠席理由の連絡を怠った」とか「不要不急の考えがおかしい」などと、いわれのない追及をされた結果、正副議長は公式の代表者会議の中で、さも私が問題を起こした配慮がない議員であるかのような言い方で、その事例を公表しました。私には発言権が与えられていない場で、匿名の事例から個人をあぶり出すような質疑が続き、一方的に虚偽であると決めつけられていました。その状況に耐えかねた私は、傍聴席から議事を止める発言をしたのです。

すると、代表者会議の出席者は、私に対し今度は議事を妨害した不規則発言であり謝罪すべきであると言い出し、謝罪を拒否すれば懲罰を受けさせると言う方向に持

っていこうとしています。私のことを悪い様に周知するのが本来の目的として、はじめからあったが故に、問題の事例を作り上げ、代表者会議で何としてでも事を大きくしたかったという、正副議長の企みがあったのだと私はそう受け止めずにはいられていませんでした。正副議長を筆頭に議員らからも、事あるごとに「何か後ろめたいことがあったのではないか」というように、あらぬ疑いの目で探られ続け、中には、「プライバシーと言うが、議員には個人情報はない。」と言い私を責める議員もいました。私の事実確認もしないで、ただ問題としか受け止めずに非難の言葉を投げられ続けたのです。

市民の代表として、悪い事は悪い、正しい事は正しいと発言する事ができない議会であれば、それは議会として機能していません。なぜなら、議会というところは、パワーバランスによって事実をどうとでも捻じ曲げることができてしまう、そんな所だと思わされる出来事が議会の中で数多くあったからです。きっと私は、多数派議員にとって耳が痛い話を良くしていた女性議員だったのかもしれませんが、議会のルールに詳しくない新人の私を相手取り、発言を止めたり、意見を削除させたり、すぐに謝罪を求めるといような処分を、これまでも幾度も受けていました。市民から閉ざされた議会の秘密会では、多数決による「懲罰」の乱用など、自分たちの都合でルールを変えたり、変えなかったりが実際にまかり通っていました。同調圧力によって固められた多数派議員から、いじめともとれる仕打ちをずっと受けていた私が、それでも耐えてこられたのは、こちらに落ち度がない限り、公平な場で公正に主張することができ、乗り切れてきたからでした。

しかし、今回の件は違います。あまりにもフェアじゃないやり方で、私は不利な立場に追いやられ、不合理な処分を強いられているので 1 人ではどうすることもできなかったのです。そのため第三者の弁護士に頼るしかありませんでした。

私には、いつも周りの人のことを優先に考えて必死に行動してきたというプライドがあります。それなのに、私の理念を否定し非難しつづけた人たちの言動に許しがたい思いを抱き、更に、職場における優位性を利用し、プライバシーの侵害を伴ってまで「懲罰」へ持っていかうとしている議会の背景に、もう耐えられない気持ちでいっぱいになりました。

このような理由から、市のハラスメント相談窓口として形式上の手続きをとるため、市職員に係る「コンプライアンス課」、及び、議員のハラスメント指針に基づく議員相談員へ、このような『ハラスメント被害の申告及び対応の要請』をすることとなりました。

芦屋市議会議員 孝岡知子